

2018年4月20日

三田図書館・情報学会 将来構想ワーキンググループ報告

下記二回の検討に基づいて、以下のように報告する。

第1回 2017年8月30日(水) 上田, 田村, 武者小路, 倉田

第2回 2018年1月20日(土) 上田, 田村, 武者小路, 倉田, 岸田, 池谷

1 会長からの諮問事項

三田図書館・情報学会刊行の **Library and Information Science** 誌および研究大会と月例会の今後のあり方について諮問する。

諮問理由

- (1) 三田図書館・情報学会の将来の財政に問題がある。
 - ・ **Library and Information Science** の印刷版刊行の費用が増加してきている。
 - ・ 個人会員は微増, 機関会員はゆるやかに減少しているが, 大学による代理徴収が廃止される可能性があり, 実施されれば40~50万円の減収となる。
 - ・ 現状のまま推移すると今後7~8年の間に, 現在の繰越金約400万円がゼロになる可能性が高い。
- (2) 学術雑誌の電子ジャーナル化は必然と考えられ, **Library and Information Science** を早期に国際標準に近い電子ジャーナルとし, オープンアクセスとするための方策が必要である。
- (3) **Library and Information Science** 編集における編集委員会と事務局の負担を減少させる必要がある。
- (4) 研究大会と月例会は大きな見直しのないまま数十年にわたり継続しており, あり方を検討する必要がある。

2 将来構想ワーキンググループの答申

- (1) **Library and Information Science** の刊行と電子ジャーナル化

[基本方針]

Library and Information Science を図書館情報学の日本語論文を中心としたオープンアクセスの電子ジャーナルとして今後も刊行を続ける。

[刊行形態]

早期に以下の体制に移行する。

- (a) 印刷版を中止し，電子ジャーナルのみとする。
- (b) オープンアクセスとする
 - ・エンバーゴ（電子版公開猶予期間）を 1 年とし，APC（掲載料）は取らない。会員にはエンバーゴ期間中の電子版閲覧のためにパスワード配布などの方策をとる。
 - ・会員資格と投稿条件を連動させる。
 - ・オープンアクセスの方法に関しては，グローバルな状況の調査，検討を継続する。
- (c) 国際的に標準となっている形態，アクセス手段を提供する
 - ・PDF，HTML による提供を行う
 - ・論文識別番号 DOI の付与，研究者識別番号 ORCID の登録の義務化は早急に行う
- (d) EBSCOhost, CiNii などの既存データベースからも，書誌データもしくは全文の提供を行う
- (e) 電子ジャーナルプラットフォームを利用する
 - プラットフォームとしては，国際文献印刷(KB Direct), J-STAGE, 独自サイトが考えられるが，継続性もある国際印刷をまず候補とする。
- (f) 編集作業を軽減するために，校正作業の外注，オンライン査読システムの導入，論文のテンプレートの提供などの対策をとる必要がある。
- (g) 事務局で，印刷版廃止後のより詳しい財政予測を行う必要がある。

(3) 研究大会，月例会

研究大会および月例会については，継続検討する。